

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	問題を抱える少年の立ち直り支援の充実						掲載ページ
							111
コスト	事業費	平成25年度執行額	平成26年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		1,893 千円 <small>青少年ボランティアステーション推進事業の総額。本事業はその一部。</small>	2,034 千円 <small>青少年ボランティアステーション推進事業の総額。本事業はその一部。</small>	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	非行やひきこもり等の問題を抱える少年の立ち直りや自立を支援するため、ボランティア活動をはじめとした様々な社会体験の場を提供します。特に、青少年施設等における野外体験プログラムの提供や、問題を抱える少年が体験活動を行うための新たな受け入れ策の開拓、関係機関等とのネットワーク構築に取り組みます。					
活動計画	関係機関等との連携強化により、様々な状態の対象者に対するボランティアプログラム提供等の充実に努めます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	立ち直り・自立支援のためのボランティア活動者数	189人	—	85人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	家庭裁判所や子ども・若者応援センターYELL等との連携により、青少年施設等でのボランティア活動に取り組んだ青少年の延べ人数を指標とし、事業の実施状況を把握します。 （最終目標と最終年度）						
（最終目標と最終年度）				順調 やや遅れ 遅れ	順調		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成24年度まで実施してきた「親子ふれあい合宿」については、非行歴のある少年の家族関係を再構築することを目的に実施してきましたが、参加ニーズが少ないため、平成25年度は事業を中止し、今後の方向性について検討しました。 立ち直り・自立支援のためのボランティア活動者数については、家庭裁判所等からの相談や依頼は少なくなっていますが、子ども・若者応援センターYELL等からの相談や依頼が増えています。 また、親子ふれあいルームや子育てふれあい交流プラザ、海岸清掃や竹林保全活動、青少年施設等の受け入れ先からの温かい理解と協力を得て、問題を抱える少年の立ち直りや自立支援に資することができています。以上のことから、順調としました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は、非行やひきこもり等の問題を抱える少年の増加が社会問題となっており、適時性のある事業です。これを青少年施設等との連携を図りながら、効率的に事業を実施することができています。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
子ども・若者応援センターYELLや若者サポートステーション、家庭裁判所等の関係機関との連携を継続しながら強化します。同時に、受け入れに協力いただいている施設やボランティア団体等との連携を継続して、問題を抱える少年のニーズに応えられるボランティア活動プログラムの開発や提供を行います。 また、「親子ふれあい合宿」については、参加ニーズが少ないため事業を廃止し、平成26年度からは、北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部で検討した、非行歴のある青少年の就労支援事業に取り組むこととします。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	少年支援室の拡充・運営						掲載ページ		
							111		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		10,896	千円	10,400	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画 → || 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	現在の5少年支援室（かなだ、わかぞの、くろさき、あいおい、あだち）を、対象とする少年の状態に応じた支援活動ができるよう機能の充実を図ります。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	不登校や非行等の少年を通所させ、カウンセリングや集団活動、自学自習の援助を行いながら、少年の学校や社会復帰に向け支援します。また、3少年支援室（かなだ、わかぞの、くろさき）で、少年の健全育成を図るために街頭補導や、各20回程度市内のコンビニやカラオケボックス、インターネットカフェ等に対して青少年を有害環境から守るため環境浄化活動としての立入調査を実施します。				
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→ 【活動の状況】
	面接・電話相談対応件数				
	不登校や非行相談等への対応や相談内容に応じた適切な支援を行うことが本事業の内容であることから、活動指標として「面接・電話相談対応件数」を設定しました。	47,306 件	単年度目標設定なし	46,814 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	（最終目標と最終年度）			— %	大変順調
					順調
					やや遅れ
	（最終目標と最終年度）				遅れ
					順調

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	少年支援室全体で年間46,814件の相談に対応しており、また様々な課題を抱え不登校となった児童生徒等の通所施設として、社会や学校への復帰を実現するため、生活習慣の確立や自学自習のための援助などを行っています。 また、コンビニやカラオケボックス等へ598件の立ち入り調査を行うなど、少年非行防止の啓発活動も積極的に取り組みました。
	「経済性」「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	社会や学校への復帰のために、カウンセリングや集団活動などに取り組んでおり、講師招聘や各種材料費等が必要となりますが、限られた予算の中で、最大の成果が達成できるよう、工夫して取り組んでいます。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

本事業は、施策に対する有効性も高く、不登校児童対策や非行等から子どもを守る対策として、重要な事業です。今後もこれまでの活動を着実に取り組むとともに、より利用しやすい施設にするために、少年支援室の機能の充実を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	メンタルフレンド派遣事業						掲載ページ		
							111		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		301	千円	375	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	メンタルフレンドをひきこもり等の児童の家庭等に派遣し、児童の心の健康を回復させるとともに、対人関係能力の向上や生活リズムの改善等を目指します。 また、軽度の被虐待経験のある児童の家庭等に派遣し、児童の心理的安定や対人関係能力の向上を図り、親子関係の安定維持を目指します。					
活動計画	メンタルフレンドは、選考、研修を経て登録者を決定し、登録後も研修の受講を義務付け、年1回以上の参加を継続登録の要件としています。 平成25年度も引き続き、メンタルフレンドを派遣し、定期的に児童の家庭等で会話やゲーム、スポーツ等を通じた児童とのふれあいの機会を作ります。						
活動指標	指標 <small>（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）</small>	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	メンタルフレンド派遣実績	57 件	単年度目標設定なし	29 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	メンタルフレンドの派遣件数の増加が、児童の心の健康回復や生活リズムの改善等に寄与することから、活動指標として掲げました。 <small>（最終目標と最終年度）</small>			— %			
	<small>（最終目標と最終年度）</small>				順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	メンタルフレンドの募集の際には面接や研修を実施し、選考により登録者を決定するなど、質の確保にも努めました。 派遣先のニーズと一致せずに派遣開始に至らないケースがあるなど、利用者が減少する要因はありますが、ひきこもりの状態にある児童や軽度の被虐待経験がある児童に対して、一定の研修を積んだ資質と意欲のあるメンタルフレンドを派遣し、当該児童とのふれあいを通じて、心の健康回復や対人関係能力の向上、親子関係の安定維持を支援することができる本事業の有効性は高いと考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果をあげるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めて運営しています。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
<p>青少年の健全育成を図るうえで、児童の心理的サポートや対人関係能力の向上等を目指した訪問活動を行う本事業の意義は大きいと考えます。一方で、派遣先のニーズと一致せず開始に至らないケースがあるなど年々利用者が減少しており、今後の事業のあり方については検討が必要と考えています。</p> <p>なお、研修を充実させるなど、メンタルフレンドの質の向上については、引き続き取り組んでいきます。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	ひきこもり児童宿泊等指導事業						掲載ページ		
							111		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		1,292	千円	973	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	不登校やひきこもり状態にある児童を対象に、通所による陶芸教室や青少年自然の家での宿泊プログラム等を実施し、社会適応力や対人関係能力の向上、精神的安定及びストレスの解消を図ります。						
活動計画	不登校児童等を対象にした体験型教室を実施します。						活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】		
	事業実施回数	45 回	単年度目標設定なし	45 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	本事業は、自己肯定感を高めるとともに児童に社会適応力を身につけさせるため、陶芸教室や宿泊体験プログラム等の中で、職員が密に接し、行動観察を行い支援・援助を行うもので、事業の実施回数が事業目的に直結することから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）			— %				
					順調	順調		
				やや遅れ				
					遅れ			

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	今年度は、陶芸教室、集団活動宿泊体験プログラム等、合わせて45回実施し、不登校やひきこもり、非行や発達障害等の児童に対して、社会適応力や対人関係能力等の向上に努めました。活動の有効性は高いと考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果を上げるべく、計画的かつ効率的な予算の執行に努めています。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
<p>本事業は、施策に対する有効性も高く、今後も現状のまま継続することが適当であると考えます。今後も目標の達成に向けて、着実な取り組みを進めていきます。 また、学校だけでは対応できない児童生徒のスキル向上の場として社会適応力を身につけさせるとともに、自己肯定感の向上に努めます。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	スクールカウンセラーの配置						掲載ページ		
							112		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		137,746	千円	135,554	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	指導第二課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	不登校やいじめ等、児童生徒の対応に当たっては、学校におけるカウンセリング等の機能の充実を図ることが課題となっています。このため、児童生徒の臨床心理に関して、高度に専門的な知識・経験を有する臨床心理士等の「心の専門家」をスクールカウンセラーとして各校に配置し、生徒指導上の諸問題の解決を図ります。						
活動計画	小・中学校におけるカウンセラー等による教育相談体制の充実を図ることで生徒指導上の諸問題の解決を図り、心の問題を抱えなくてよい状態を目指します。							
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)		→	【活動の状況】
活動指標	小学校へのスクールカウンセラーの派遣充実		8,486 件	9,500 件	10,652 件	112.1 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	小学校へスクールカウンセラーを派遣し相談等を行っていることから、小学校での相談件数を指標とし、スクールカウンセラーの体制充実を図ります。 (最終目標と最終年度)				62 中学校区			
		スクールカウンセラーの配置中学校区数						順調
		教育相談に関する高度で専門的な知識・経験を有する臨床心理士等の「心の専門家」をスクールカウンセラーとして、すべての中学校区に配置し、生徒指導上の諸問題の解決を図ります。このため、配置中学校区数を指標として設定しました。 (最終目標と最終年度)						順調

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	スクールカウンセラーの全中学校への配置及び小学校への派遣を継続的に行いました。教育相談に関する高度で専門的な知識・経験を有する「心の専門家」として、生徒指導上の諸問題の解決改善に貢献しました。児童生徒の「心のよりどころ」となっています。また、教員のカウンセリングのスキル向上にも貢献しています。以上のことから、順調と判断しました。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	各中学校へのスクールカウンセラーの配置と小学校への派遣の見直しを行い、効率的な執行ができました。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
児童生徒の相談内容が進路・学習・友人関係・部活動等、多様化しており、小中連携の強化を目指すためにも、さらに小学校へのスクールカウンセラーの派遣を充実させることが必要です。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業						掲載ページ		
							112		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		32,503	千円	34,000	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	指導第二課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	社会福祉士や精神保健福祉士の資格を有し、専門的な知識を有するスクールソーシャルワーカーを教育委員会に配置して、児童生徒への直接的な働きかけを行うとともに家庭環境への働きかけを行うなど、福祉的視点から支援活動を行うことにより、問題行動の解決を図ります。					
活動計画	児童生徒への直接的な働きかけを行うとともに家庭環境への働きかけを行うなど、福祉的視点による積極的な支援活動を継続して実施します。						活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		→	【活動の状況】
	スクールソーシャルワーカー設置人数	6 人	8 人	7 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	できるだけ早期に各区毎にスクールソーシャルワーカーの配置を実施します。このため、設置人数を指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）			87.5 %			
	学校訪問、家庭訪問回数	5,901 回	8,000 回	9,525 回	順調 やや遅れ		順調
学校訪問、家庭訪問回数を増加し、児童生徒及び家庭環境への直接的な働きかけを行います。このため、学校訪問、家庭訪問回数を指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）	119.1 %			遅れ			

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	不登校や虐待等の問題を抱える児童生徒393人に対応し、そのうち159人が解決・好転となりました。また、学校や家庭への訪問、電話などによる働きかけは、昨年度5,901回から9,525回と増加し、スクールソーシャルワーカー1人当たりの訪問回数でも昨年度を上回っています。以上のことから、「順調」と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	スクールソーシャルワーカー7人で393人の児童生徒を支援しました。また、社会福祉士や精神保健福祉士など専門性の高い人材が対応することで、適切で効果的な支援が行われています。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
平成25年度にスクールソーシャルワーカーを7人体制としましたが、今後の支援対象児童生徒数の推移や取組状況を見ながら、スクールソーシャルワーカーの増員による体制の充実を図る必要があります。 今後もスクールソーシャルワーカーの増員を検討し、支援対象者数が多い区については、複数のスクールソーシャルワーカーが担当し、支援体制の充実を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	不登校・いじめ対策の充実						掲載ページ		
							112		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		188,522	千円	206,249	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	指導第二課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	不登校は、児童生徒に関わる最重要課題の一つであることから、事案の未然防止・早期解決や、社会性の育成を含む多様な支援を行うことで問題解決に取り組みます。 また、「いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こりうるもの」であり「人間として絶対に許されない」という認識の下、子ども達が安心して学校に通い、健やかな学校生活を過ごせることを目指します。				いじめについては、9月に全市一斉に「いじめに関する実態調査（アンケート・面談）」を実施し、より丁寧な把握に努めた結果、小学校で33件、中学校で110件、いじめが報告された。実態調査で認知されたいじめについては、児童・生徒に対する指導や保護者を含めた話し合いにより、全て解決しました。	
活動計画	中1ギャップが顕著であり、その要因を分析すると共に、小中連携を含め、きめ細かな対応により、不登校児童生徒数の減少に努めます。 また、教員のいじめに対する意識の希薄化を招くことのないよう、生徒指導主事・主任会議等において、継続的な取組、啓発に努めます。					活動実績	
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	不登校児童生徒数 中1ギャップの解消のため、不登校対策推進協議会において協議したり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して、不登校児童生徒数の減少を図ります。このため、不登校児童生徒数を指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）H25年度 750人	740 件	750 件	9月（予定）に文部科学省が公開するまで非公開	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	いじめの認知件数 教育相談活動や「心に関する実態調査」等の実施により、校内でのいじめの早期発見に努めました。また、スクールカウンセラーの積極的な活用により、いじめの早期発見・解決に努めます。このため、いじめの認知件数を指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）H25年度 120人	279 件	120 件	9月（予定）に文部科学省が公開するまで非公開	順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	不登校対策推進協議会において、中1ギャップ解消のための施策等について協議、検討を行いました。 また、平成25年度に策定された「いじめ防止対策推進法」の趣旨を踏まえ、平成26年度からの体制整備等について、準備・検討を行うとともに、いじめの未然防止・早期発見に係る対策として、全小中学校において定期的なアンケートや教育相談の実施に努めました。 以上のことから、「順調」と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	不登校対策推進協議会、療育キャンプ等について、適切で効果的な経費の執行に努めました。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
不登校やいじめを進路等の生き方にかかわる重大な問題としてとらえて、的確に実態を把握し、きめ細かな対応を行います。さらに、不登校やいじめに関する取組みの点検や充実を図ります。